



2. 活動の概要

2-1次世代医療構想センターとは

現在も進められている医療制度改革を前に、千葉県と千葉大学医部附属病院のより密な連携と協力が求められる。両者の連携に際し、言うなれば「県」と「大学」の橋渡し役として期待され設置されたのが次世代医療構想センター（以下「当センター」）である。当センターは2022年3月までの研究組織として「次世代医療構想部門」と「政策情報分析部門」の2部門から構成される（下図）。設置当初5名だったメンバーは現在約20名となり、小児医療・周産期医療、救急医療にかかわる県内の病院の医師、管理職の方との意見交換を行い、千葉大学病院、千葉県、地域の医療機関の3者との連携を図っている。

当センターの設置目的は3つにまとめられる。

- ①県内における持続可能で質の高い医療を実現する
- ②これから求められる医療人材の育成を通じ、県内に定着する医療従事者の増加を図る
- ③医療機関の役割分担と人材配置の在り方について、関係者が互いによる合意形成を図るとされる。

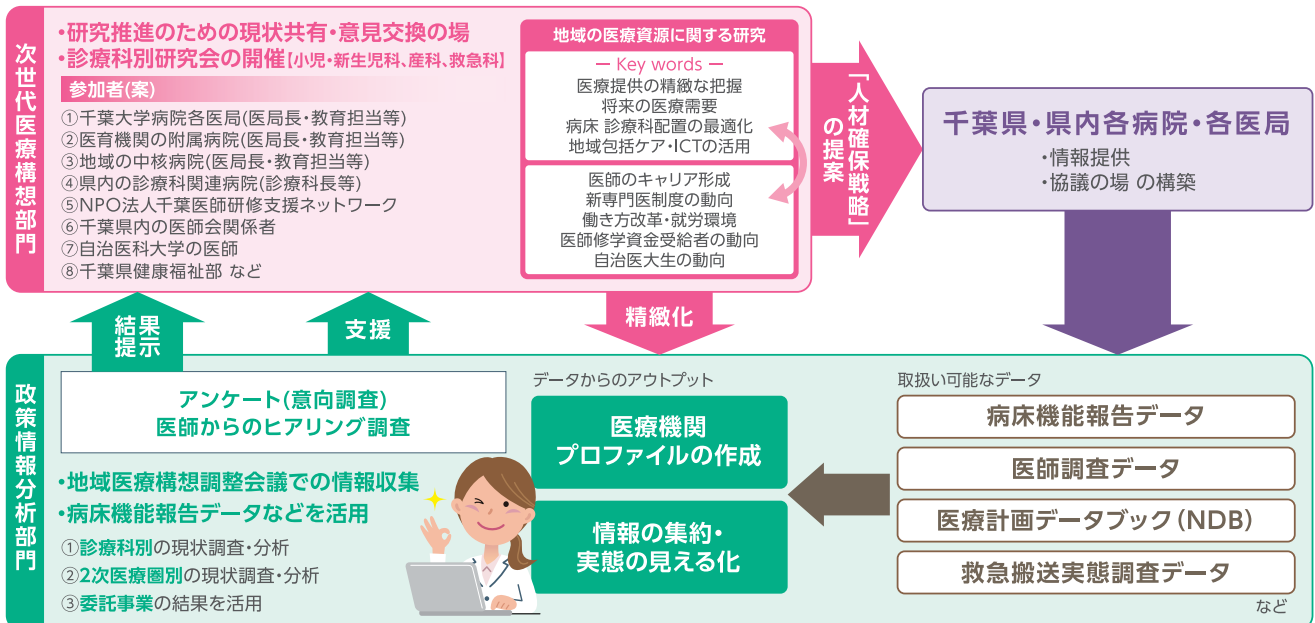
目的を達成するために、以下の研究を実施してきた。特に「政策医療分野」として位置づけられる、周産期医療分野、新生児医療分野、小児医療分野、救急医療分野を対象に、4つの課題に取り組んでいる。

- ①各地域のニーズ、病院の機能、医師のキャリア形成の傾向を明確化するためのデータの収集と分析
- ②保健医療計画の整合を目指した意見交換の場を通じ、問題点を抽出する
- ③働き方改革や情報通信技術（ICT）の進展を見据え、医療提供の効率化と新たな提供の在り方を検討する
- ④今後の医療提供について、医療を受ける側である地域住民に周知する方策と合意形成モデルを検討するとまとめられる。

また、2020年のCOVID-19の影響により、社会が劇的に変わっている中、当センターは、千葉県庁に全面的に協力し、千葉県新型コロナウイルス感染症対策連絡会議専門部会へのオブザーバー参加を含めたCOVID-19対策に従事してきた。このような背景を踏まえ、千葉県の政策医療分野である救急医療分野、周産期医療分野、小児医療分野がCOVID-19による影響などについても検討した。

次世代医療構想センター 研究計画の全体像

働き方改革・地域医療構想・新型コロナウイルス感染症対策を総合的に勘案した千葉県の政策医療研究





2. 活動の概要

活動概要

新型コロナウイルス対策

地域医療構想の現状

各領域の現状・課題

ICTの活用

人材育成

自治体との連携

報告会

業績一覧

2-2 メンバー紹介

よしむらけんすけ
吉村健佑



職位 センター長・次世代医療構想部門長・特任教授

経歴 千葉大学医学部医学科卒業（医師）。

東京大学大学院医学系研究科公共健康医学専攻修了（公衆衛生学修士）。

千葉大学大学院医学研究院博士課程修了（医学博士）。

千葉県内で精神科医・産業医として勤務後、2015年厚生労働省に入省、保険局・医政局にて、医療情報分野の政策立案と制度設計に関わる。

2017年国立保健医療科学院・主任研究官としてレセプトデータを用いた政策研究に従事。

2018年4月より千葉大学病院 特任講師となり、職場のメンタルヘルス対策、働き方改革、病院経営・管理学の実務と教育研究を担当。

2019年8月より設置された、次世代医療構想センターのセンター長・特任教授に就任。

また千葉県医療整備課 医師確保・地域医療推進室で医師の確保と偏在対策に取り組んでいる。

専門 公衆衛生、医療政策、医療情報、精神保健学、産業保健

資格 医師、精神保健指定医、日本精神神経学会精神科専門医・指導医、労働衛生コンサルタント（保健衛生）、社会医学系専門医協会社会医学系専門医・指導医、日本医療情報学会医療情報技師、公認心理師

委員歴 1. 日本精神神経学会 「精神科医・精神科医療の実態把握・将来計画に関する委員会」委員 「オンライン精神科医療検討作業班」委員
2. 日本産業衛生学会「遠隔産業衛生研究会」

さとうだいすけ
佐藤大介



職位 副センター長・政策情報分析部門長・特任准教授

経歴 慶應義塾大学 総合政策学部 卒業

東京医科歯科大学大学院 修士課程修了（医療管理政策学）

東京医科歯科大学大学院 医療政策情報学 博士課程修了（医学）

2012年10月に東京大学医学部附属病院 企画情報運営部/企画経営部の助教として病院経営に従事。

2017年1月に厚生労働省 国立保健医療科学院 医療・福祉サービス研究部 主任研究官として、

2018年4月には厚生労働省 国立保健医療科学院 医療・福祉サービス研究部と

保健医療経済評価研究センターの主任研究官として研究に寄与。

2019年12月に千葉大学医学部附属病院 次世代医療構想センター 特任准教授に就任し、

次世代医療構想センター 副センター長として 政策情報分析部門にて地域医療構想、

働き方改革に関するデータ解析に取り組んでいる。

専門 医療情報学、医療経済評価学、病院管理学

おくむらやすゆき
奥村泰之



職位 特任講師

経歴 2009年3月 日本大学大学院文学研究科 修了 博士（心理学）

2005年8月 国立保健医療科学院 研究員

2006年8月 日本医科大学 研究員

2008年5月 国立精神・神経医療研究センター 研究員

2013年4月 医療経済研究機構 主任研究員

2018年4月 東京都医学総合研究所 主席研究員

2020年4月 千葉大学医学部附属病院次世代医療構想センター 特任講師

2020年4月 臨床疫学研究推進機構 代表理事

2020年4月 リアルワールドデータ株式会社 部長付/解析企画部

専門 臨床疫学、医療経済学

委員歴 「Journal of Epidemiology」「認知療法研究」「行動療法研究」「Journal of Alzheimer's Disease」編集委員、「老年看護学」査読アドバイザー

あべこうき
阿部幸喜



職位 特任講師

経歴 浜松医科大学医学部卒業

聖路加国際病院にて初期研修後、聖隷三方原病院及び日本医科学千葉北総病院救命救急センターに従事。千葉徳洲会病院及び社会保険船橋中央病院にて整形外科をスペシャリティとして研修し、千葉大学大学院整形外科脊椎班にて研鑽し学位取得。2018年厚生労働省に人事交流し、政策統括官及び医政局にて行政に従事。2020年JCHO 船橋中央病院整形外科に入職。2021年千葉大学医学部次世代医療構想センターに就任。

専門 整形外科領域

資格 医師、日本整形外科学会専門医、日本救急医学会専門医

なるせひろし
成瀬浩史



職位 特任助教

担当 情報発信

経歴 近畿大学 生物理工学部 遺伝子工学科卒業

慶應義塾大学大学院 医学研究科 修士課程修了（医科学）

ベンチャー広告代理店で広告制作やコンサルティング企業で営業などの経験を経て、

2012年8月に株式会社協和企画に入社し、編集や企画などを担当。

2016年7月より官民人事交流制度で厚生労働省 健康局 結核感染症課に出向。

感染症にかかわる広報の企画立案にかかわる。1年間任期を延長し、3年間の任期を終了し、株式会社協和企画に帰任。

2019年8月の次世代医療構想センターの設立時より特任助教として着任し、現在に至る。

専門 広報戦略、ヘルスコミュニケーション

はなわしんすけ
埴真輔



職位 特任助教

担当 周産期領域

経歴 成田赤十字病院産婦人科 第3部長

秋田大学医学部医学科卒業

筑波大学附属病院初期臨床研修医

千葉大学大学院医学研究院博士課程修了（医学博士）

筑波大学附属病院で初期臨床研修、成田赤十字病院で後期研修修了後、2013年より千葉大学医学研究院生殖医学教室で産婦人科の修練と、子宮体癌の研究に関わる。

2017年大和市立病院で腹腔鏡手術の国内留学

2018年4月より千葉大学医学研究院生殖医学教室助教、学生指導、腹腔鏡手術の普及に取り組む

2019年より、千葉県医師キャリアサポーターとして従事。

2019年4月より成田赤十字病院で、腹腔鏡手術のさらなる普及と、婦人科腫瘍治療にあたり、また次世代医療構想センター助教を併任し、千葉県周産期医療のさらなる発展を目指した取り組みを行う

専門 産婦人科学、婦人科腫瘍、低侵襲手術

資格 医師、日本産科婦人科学会産婦人科専門医、日本婦人科腫瘍学会婦人科腫瘍専門医、日本周産期・新生児医学会周産期専門医（母体・胎児）、日本がん治療認定医機構がん治療認定医、母体保護法指定医、日本産科婦人科学会内視鏡技術認定医

委員歴 日本産科婦人科学会 未来委員会 若手委員（2017-2018）

おかだれおな
岡田玲緒奈



職位 特任助教

担当 小児科領域

経歴 千葉大学医学部医学科卒業（医師）

千葉大学大学院医学研究院博士課程在学中

千葉県内での初期臨床研修 修了後、2012年より千葉大学医学部附属病院 小児科で専攻医研修を開始、2014年 日本小児科学会 小児科専門医を取得した。

2015年以降、小児血液・腫瘍をサブスペシャリティとして研修している。

2018年 千葉大学大学院医学研究院 小児病態学 博士課程に入学。小児白血病を中心とし、成人がん等を含めた悪性疾患における、マイクロRNAによる制御機構につき研究している。

2019年より、千葉県医師キャリアサポーターとして従事。

2019年8月 次世代医療構想センターの特任助教に着任。地域医療構想、医師の働き方改革、少子化に対応する、千葉県の小児医療、新生児医療の整備に向けての検討を行っている。

専門 小児科学、小児血液・腫瘍学

資格 医師、日本小児科学会小児科専門医

いわせしんや
岩瀬信哉



職位 特任助教

経歴 救急領域

所属 千葉大学医学部医学科卒業（医師）

千葉大学大学院医学研究院博士課程在学中

国保直営総合病院君津中央病院で初期研修を行い、重症患者の治療を行う救急集中治療に興味を持ち、2013年に千葉大学大学院医学研究院 救急集中治療医学に所属。

体外式膜型人工心肺（ECMO）、ICU患者の重症度予測、外傷などを中心に救急集中治療に関連する発表を行ってきた。また Interleukin-6の感染症診断精度に関する臨床研究に関して研究成果を論文報告した。

2017年に千葉大学大学院医学博士課程を開始、2021年3月に修了見込みである。臨床現場で未解決な重要課題である血管透過性亢進に着目し、新規治療法開発を目指す研究を行うとともに、機械学習を用いたICU患者の転帰予測に関する研究を行っている。

2020年5月に次世代医療構想センター特任助教に着任し、現在に至る。

専門 救急医学、集中治療医学

資格 医師、日本救急医学会救急科専門医・ICLSコースディレクター、日本集中治療医学会集中治療専門医、日本DMAT隊員登録



2. 活動の概要

活動概要

新型コロナウイルス対策

地域医療構想の現状

各領域の現状課題

ICTの活用

人材育成

自治体との連携

報告会

業績一覧

さくらばしょうこ
櫻庭唱子



職位 特任研究員

経歴 東京女子医科大学看護専門学校 卒業

千葉大学看護学部 卒業（3年次編入）

千葉大学大学院医学薬学府 修士課程修了（医学修士）

東京女子医科大学病院での勤務を経て千葉大学看護学部へ編入学。

2018年6月より一般社団法人 日本老年学的評価研究機構、特定非営利活動法人 日本医療政策機構にて従事。

2019年7月より一般財団法人 医療経済研究・社会保険福祉協会 医療経済研究機構 国内の全介護保険者を対象にした実施事業内容や保険料等の調査・見える化を担当。

2020年4月より千葉大学医学部附属病院 次世代医療構想センター 特任研究員として着任。

専門 社会疫学

資格 看護師、保健師

委員歴 医療・介護勤務環境改善ナッジ研究会委員

おがたけん
緒方健



職位 特任研究員

経歴 鹿児島大学法学部法学科卒業

2004年行政書士登録。

2008年から2021年まで、公益財団法人くまもと産業支援財団、及び一般財団法人日本データ通信協会にてプライバシーマーク審査に従事。この間、2014-2017年に複数のISO認証審査機関にてISMS・ISO9001主任審査員も務める。

2019年6月、株式会社キュア・アップ入社。個人情報保護管理者業務及び情報セキュリティマネジメント業務を担当。

2020年10月、千葉大学医学部附属病院 次世代医療構想センター 特任研究員に着任。

専門 情報セキュリティ、個人情報保護管理

資格 日本医療情報学会医療情報技師、行政書士、IPA高度情報処理技術者、プライバシーマーク主任審査員、ISMS審査員補、ISACA認定 Certified Data Privacy Solution Engineer

委員歴 1. 特定非営利活動法人デジタル・フォレンジック研究会 医療分科会・日本語処理解析性能評価分科会 各委員（2014-）

2. 国立研究開発法人 セキュリティアドバイザー（2016-）

3. 一般社団法人日本ユーザビリティ医療情報化推進協議会（JUMP） ゲノムが作る新たな医療推進委員会 委員（2017-）

もりたみのり
森田美紀



職位 技術補佐員

担当 研究補佐

おくしまかよこ
奥島佳代子



職位 事務補佐員

担当 総務・経理

かとうなち
加藤那智



職位 事務補佐員

担当 総務・経理

こばやしだいすけ
小林大介



- 職位** 客員准教授
所属 神戸大学大学院医学研究科 特命准教授
経歴 大阪大学経済学部経営学科 卒業
京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻専門職学位課程 修了（医療経済学分野）
京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻博士後期課程 研究指導認定退学
大学卒業後、金融機関向けシステム会社にてシステムエンジニア・コンサルタント営業に従事。2013年10月に東京大学医学部附属病院国立大学病院データベースセンター特任助教として、全国立大学病院の臨床データや財務データ分析に従事。2016年1月に名古屋大学医学部附属病院メディカルITセンター病院助教として、愛知県内の各病院から収集したDPCデータを元に地域医療提供体制についての分析に取り組む。2017年12月に神戸大学大学院医学研究科医療システム学分野医療経済・病院経営学部門特命准教授として、文部科学省補助事業として病院経営人材育成プログラムのコーディネータとして教育活動に従事しながら、神戸大学医学部附属病院内に情報分析推進室を立ち上げ、病院執行部会議構成員として大学病院経営に携わりながら、兵庫県内の各病院からDPCデータを収集し、地域医療構想の推進に向けた分析を行っている。
- 専門** 医療経済学、病院管理学、医療情報学
委員歴 厚生労働省地域医療構想アドバイザー（兵庫県）、愛知県医師会地域医療政策研究機構委員会 委員、兵庫県医師会シンクタンク 委員、兵庫県病院構造改革委員会 委員、公立中央総合病院新病院整備検討委員会 副委員長、兵庫県診療情報管理研究会 会長、医療経済学会学術推進委員会 委員、日本医療マネジメント学会兵庫支部 世話人、第41回医療情報学連合大会プログラム委員長

うめざわこうがく
梅澤耕学



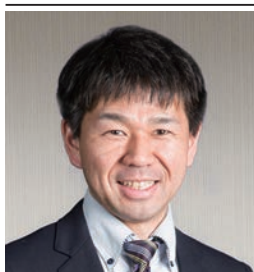
- 職位** 客員研究員
所属 社会医療法人 緑泉会 米盛病院 救急科
経歴 旭川医科大学医学部医学科卒業
JA厚生連 帯広厚生病院 初期研修
湘南鎌倉総合病院 救急総合診療科 後期研修
湘南鎌倉総合病院 救急総合診療科 医長
2018年6月 厚生労働省健康局 医系技官
2018年8月 厚生労働省保険局 医系技官
2020年6月から現職
- 専門** 救急医学、中毒学
資格 医師、救急科専門医、トキシコロジスト

こばやしまさふみ
小林真史



- 職位** 客員研究員
所属 医療法人社団 昌健会 ライフサポートクリニック大綱 診療部長
経歴 千葉大学医学部医学科卒業（医師）
千葉大学大学院医学研究院博士課程在学中
千葉大学医学部附属病院での初期臨床研修修了後、2011年より千葉大学医学部附属病院小児外科で専攻医研修を開始。千葉県内の基幹病院および東京都立小児医療センターなどで勤務。
2015年より、横浜市立大学医学部臓器再生医学にてiPS細胞の研究に従事。
2018年より、千葉市内で在宅医療を担う、ふたば訪問クリニックにて副院長に就任
小児在宅医療を展開しているあおぞら診療所、赤羽在宅クリニックにて研修。
2020年より、千葉県最大の在宅療養支援診療所、ライフサポートクリニック大綱にて診療部長に就任
- 専門** 小児外科、在宅医療
資格 医師、外科専門医

くぼたかずみ
窪田和巳



- 職位** 客員研究員
所属 横浜市立大学医学部臨床統計学 データサイエンス研究科ヘルスデータサイエンス専攻 講師
経歴 武蔵野赤十字病院病棟看護師、日本医療政策機構研究員等を経て2015年より横浜市立大学医学部臨床統計学教室に着任。医療ビッグデータを用いた政策提言や医療経済分野の教育・研究に従事。名古屋市立大学看護学部、東京大学大学院医学系研究科博士課程修了（博士（保健学））。看護師、保健師、国会議員政策担当秘書取得。
- 専門** 公衆衛生学、生物統計学、医療政策学、精神保健学
資格 看護師、保健師、国会議員政策担当秘書資格
委員歴 第25回日本看護管理学会学術集会 企画委員

さいとうひろき
齋藤博樹



- 職位** 客員研究員
所属 千葉大学医学部附属病院 次世代医療構想センター客員研究員
経歴 2017年4月に株式会社 GENOVAに入社し、医療機関向けに広報戦略の提案営業、ホームページ・動画制作ディレクション、既存顧客サポート業務（ウェブサイトアクセス解析、SEO、MEO 対策等）、医療機関向け自動会計システム営業、社長室立ち上げ及び社長秘書業務、ICTを活用した医療提供の在り方に関する調査・企画業務を担当。
2019年12月より次世代医療構想センターへ客員研究員として着任し、主にヒアリング調査全般を担当。



2. 活動の概要

2-3 活動年表

2019年度

| | 研究活動 | | | 出来事 |
|-----|--|---|--|--------------------------------------|
| 8月 | 1日 当センター設立 1日 WEBサイト公開 23日 第6回定例会開催 | 24日 当センターお披露目会 28日 facebook 開始 28日 厚生労働省・千葉県の意見交換会開催 | 31日 千葉医療情報セミナーで講演 | |
| 9月 | 5日 千葉県医師会将来ビジョン委員会にて事業紹介 7日 自治医科大学千葉県夏季研修報告会で意見交換 7日 ちば医経塾で講義 12日 意見交換：今後の医療・介護のあり方に係る有識者 | 13日 第7回定例会開催 17日 当センター紹介パンフレット初版公開 17日 m3.comにて記事掲載 22日、23日 千葉県周産期母子医療センター見学ツアーセミナーに参加 | 27日 m3.comにて記事掲載 28日 日本ヘルスコミュニケーション学会に参加 28日 日本公共政策学会関西支部の第12回関西支部大会で講演 | 台風15号により千葉を中心に被害 424の公立・公的病院リスト発表 |
| 10月 | 4日 m3.comにて記事掲載 4日 東京医科歯科大学にて講演 | 18日 東京医科歯科大学 大学院歯医学総合研究科の東京都地域医療政策学講座で意見交換 | 23日 保健医療科学院にて講演 25日 第8回定例会開催 28日 医療政策セミナー告知開始 | |
| 11月 | 3日 home coming party で講演 8日 第9回定例会開催 9日 福井大学医学部で講演 9日 医師の勤務環境整備に関する講習会に参加 13日 千葉地域医療構想調整会議にオブザーバー参加 15日 第32回日本総合病院精神医学会総会にて講演 | 17日 ちば地域医療魅力発見セミナー2019に参加 17日 医師の働き方改革をみんなで考えるフォーラムに参加 18日 山武長生夷隅地域保健医療連携・地域医療構想調整会議にオブザーバー参加 | 19日 東葛南部地域保健医療連携・地域医療構想調整会議にオブザーバー参加 21日 東葛北部地域保健医療連携・地域医療構想調整会議にオブザーバー参加 22日 第10回定例会開催 26日 第1回医療政策セミナー開催 | |
| 12月 | 2日 当センター紹介パンフレット第2版公開 8日 第4回 Chiba Clinical Skills Boot Camp 2019に参加 | 8日 第3回オンライン診療研究会に参加 10日 第2回医療政策セミナー開催 | 13日 第11回定例会開催 17日 第3回医療政策セミナー開催 ヒアリング調査：8件 | |
| 1月 | 10日 第12回定例会開催 参加：病院見学ツアー（主催：千葉11日 県健康福祉部 医療整備課） 14日 第4回医療政策セミナー開催 | 20日 小児臨床カンファレンスに参加 22日 第5回医療政策セミナー開催 24日 第13回定例会開催 28日 第6回医療政策セミナー開催 27日 twitter開始 | 31日 君津地域保健医療連携・地域医療構想調整会議にオブザーバー参加 ヒアリング調査：9件 | 新型コロナウイルス感染拡大 |
| 2月 | 3日 市原地域保健医療連携・地域医療構想調整会議に参加 5日 安房地域保健医療連携・地域医療構想調整会議にオブザーバー参加 | 7日 東葛南部地域保健医療連携・地域医療構想調整会議に参加 | 12日 千葉地域医療構想調整会議にオブザーバー参加 28日 第14回定例会開催 ヒアリング調査：18件 | |
| 3月 | 7日 千葉医療構想フォーラム（延期） | 13日 第15回定例会開催 | 30日 第16回定例会開催 ヒアリング調査：17件 | 診療報酬改定にかかわる告示 |

2020年度

| | 研究活動 | | 出来事 |
|----|--|--|----------------------------|
| 4月 | 10日 千葉県新型コロナウイルス感染症対策本部より当センターに対し、新型コロナウイルス感染症対策への協力要請 | | 定例会開催（毎週月曜日） ヒアリング調査：5件 |
| 5月 | 1日 2019年度活動報告書の公開 7日 千葉県新型コロナウイルス感染症対策連絡会議専門部会（第1回）に参加 15日 当センターが亥鼻イノベーションプラザに移転 | 22日 千葉県新型コロナウイルス感染症対策連絡会議専門部会（第2回）に参加 26日 千葉県新型コロナウイルス感染症対策連絡会議専門部会（第3回）に参加 28日 千葉大学医学部学生向けに講義 | 定例会開催（毎週月曜日） |

| | 研究活動 | | 出来事 | |
|-----|---|--|--|--|
| 6月 | 2日 千葉県新型コロナウイルス感染症対策連絡会議専門部会（第4回）に参加 9日 千葉県新型コロナウイルス感染症対策連絡会議専門部会（第5回）に参加 | 23日 千葉県新型コロナウイルス感染症対策連絡会議専門部会（第6回）に参加 29日 早稲田大学学生向けに講義 30日 千葉県新型コロナウイルス感染症対策連絡会議専門部会（第7回）に参加 | 定例会開催（毎週月曜日） ヒアリング調査：1件 | |
| 7月 | 6日 国立保健医療科学院にて講義 20日 早稲田大学学生向けに講義 | 21日 千葉県新型コロナウイルス感染症対策連絡会議専門部会（第8回）に参加 29日 第1回「千葉県の産婦人科領域へのCOVID-19の影響」のディスカッション | 定例会開催（毎週月曜日） ヒアリング調査：4件 | |
| 8月 | 12日 第1回「千葉県の小児科領域へのCOVID-19の影響」のディスカッション 18日 千葉県新型コロナウイルス感染症対策連絡会議専門部会（第9回）に参加 | 28日 医療ビッグデータを活用した研究セミナー第1回を開催 | 定例会開催（毎週月曜日） ヒアリング調査：3件 | |
| 9月 | 2日 令和2年度 第1回千葉地域医療構想調整会議に参加 12日 公立小松大学主催の市民公開フォーラム「Society5.0時代の医療」で講演 15日 千葉県新型コロナウイルス感染症対策連絡会議専門部会（第10回）に参加 | 16日 第1回「千葉県の救急科領域へのCOVID-19の影響」のディスカッション 23日 第2回「千葉県の産婦人科領域へのCOVID-19の影響」のディスカッション 25日 医療ビッグデータを活用した研究セミナー第2回を開催 | 30日 第2回「千葉県の小児科領域へのCOVID-19の影響」のディスカッション 定例会開催（毎週月曜日） ヒアリング調査：3件 | 管内閣の発足 |
| 10月 | 20日 千葉県新型コロナウイルス感染症対策連絡会議専門部会（第11回）に参加 | 28日 第1回 新生児医療 集団ヒアリング開催 | 定例会開催（毎週月曜日） ヒアリング調査：4件 | 令和2年度の研修希望者と研修プログラム（研修病院）のマッチングについて発表 |
| 11月 | 1日 ちばぎん総合研究所の会員向け機関誌に記事掲載 4日 当センター紹介パンフレット第3版公開 12日 第2回「千葉県の救急科領域へのCOVID-19の影響」のディスカッション 16日 慶應義塾大学SFCで講義 | 17日 千葉県新型コロナウイルス感染症対策連絡会議専門部会（第12回）に参加 18日 第9回育星塾にて講義 23日 WHO 神戸センター主催のフォーラムに登壇 26日 動画公開：医療ビッグデータを活用した研究セミナー第1回 | 26日 YouTube アカウント開設 28日 第35回熊本県医療情報システム研究会で講演 定例会開催（毎週月曜日） ヒアリング調査：5件 | |
| 12月 | 1日 千葉県新型コロナウイルス感染症対策連絡会議専門部会（第13回）に参加 5日 千葉大学文化祭「亥鼻祭2020」で講演 | 9日 医療ビッグデータを活用した研究セミナー第2回の動画公開 15日 千葉県新型コロナウイルス感染症対策連絡会議専門部会（第14回）に参加 16日 横浜市立大学データサイエンス学部で講義 | 定例会開催（毎週月曜日） ヒアリング調査：2件 | 第5回NDBデータ公開 |
| 1月 | 1日 千葉県新型コロナウイルス感染症対策連絡会議専門部会（第15回）に参加 15日 第2回 新生児医療 集団ヒアリング開催 | 26日 千葉県新型コロナウイルス感染症対策連絡会議専門部会（第16回）に参加 28日 病院新聞に記事掲載 | 定例会開催（毎週月曜日） ヒアリング調査：3件 | 15日 厚生労働省が「新型コロナウイルス感染症に係る予防接種の実施に関する手引き（1.1版）」公表 18日 厚生労働省が「新型コロナウイルス感染症に係る予防接種の実施に関する医療機関向け手引き（初版）」公表 |
| 2月 | 6日 千葉医療構想フォーラム（延期） 8日 NTTコミュニケーションズとの共同研究を発表 | 9日 千葉県新型コロナウイルス感染症対策連絡会議専門部会（第17回）に参加 | 定例会開催（毎週月曜日） ヒアリング調査：3件 | 1日 千葉大学病院がコロナワクチンセンターを設置 |
| 3月 | 9日 千葉県新型コロナウイルス感染症対策連絡会議専門部会（第18回）に参加 | 18日 第3回 新生児医療 集団ヒアリング開催 | 定例会開催（毎週月曜日） ヒアリング調査：4件 | |



2. 活動の概要

2-4 2020年度の主な活動の紹介

●新型コロナウイルス感染症対策

次世代医療構想センター（以下、「当センター」）は、千葉県庁に全面的に協力し、千葉県新型コロナウイルス感染症対策連絡会議専門部会へのオブザーバー参加を含めた新型コロナウイルス感染症（以下、「COVID-19」）対策に従事してきた。このような背景を踏まえ、千葉県の政策医療分野である救急医療分野、周産期医療分野、小児医療分野が新型コロナウイルス感染症によってどのような影響が生じたのかについて検討した。特に診療現場の観点から、COVID-19への対応、通常診療への影響、医師確保や働き方改革への影響についてそれぞれ考察した。

●千葉県の地域医療構想の現状分析

千葉県では、病床機能報告制度を活用して医療機能の把握に努めるとともに、医療機能をより適切に把握するために千葉県地域医療構想調整会議を通じて地域別の調査等に基づく定量的基準を作成しており、課題整理、対応策の検討、地域連携等の促進に取り組んでいる。全国で実施されている地域の実情に応じた病床機能の適切な把握に関する取り組みや定量的基準に係る基本的考え方や推計モデルについて整理し、千葉県の取り組みについて評価を試みた。当センターの特長である公衆衛生学や医療政策学等に基づく科学的観点に基づき、千葉県における地域医療構想に係る機能区分の考え方を評価することで、地域医療構想調整会議の活性化に貢献する。

●周産期領域、小児領域、救急領域における医療提供の実情の把握

新生児領域においては、千葉県内の総合・周産期母子医療センターの新生児科医師を対象に個別・集団のヒアリング調査を行い、定量的な調査結果からは見えにくい診療領域や地域の実態を明らかにすることを目的としている。診療科における医療提供体制のあるべき姿の実現に寄与することを目的とした調査である。この調査から、新生児科医療の供給側の課題、需要側の課題、あるべき医療提供体制を検討した。今後、産科、小児科、救急科の領域でも同様の調査を実施する予定である。

●ICTを活用した医療政策課題への取り組み

これまでの「業務効率化」「連絡・連携」が主な目的だった医療のICT化は、「医療データの活用」という視点から再構築を迫られている。一方で機微な内容を含む医療情報をサイバーリスクから守り続けるためには、先進的なセキュリティ技術の実装が必要となる。当センターでは、医療現場におけるセキュアなICTの活用について、大学病院内の臨床現場、およびICT事業者・専門家の参画を得て研究プロジェクトを企画・推進している。2021年3月現在、「消化器内科における、ICTを活用した患者参加型臨床研究の推進に関する研究」、「神経内科における、神経免疫疾患のAI診断支援ツール開発を目的とした予備研究」、「救急部・集中治療科における、重症呼吸不全に対する経皮的膜型心肺を用いた治療に関する管理システムの正確性評価」の3つが進行している。

●人材育成の取り組み

現状の課題として、千葉県での地域医療構想などの医療政策を進める上で、行政・医療機関・医師会等を含む関係機関における突っ込んだ議論が必要となる。2019年に引き続き、2020年度では「医療ビッグデータを活用した研究セミナー」を開催した。開催する目的は「医療における現状変更や課題解決手段として、データによる見える化と関係者の合意形成が重要であるという観点から、データによる見える化の方法について、レセプトデータ（NDB）の分析を例に学ぶ」である。オンライン開催により敷居が下がったこともあり、全国から延べ1,200名を超える参加者を得、参加者から高い評価を得た。

●県内市町村との連携

千葉縣市町村国保保健事業の現状に対して以下の課題に対する認識を踏まえたデータ分析および市町村職員を対象とした研修事業の支援を行ってきた。千葉縣市町村国保保健事業を実施および評価に際しては、「国保保健事業の実施における県内市町村の地域特性」、「国保保健事業の評価におけるレセプトデータの加工・分析」、「データ分析結果の活用方法」の3つの課題がある。本事業では、当センターが有する千葉県における医療提供体制に関する知見を基に、市町村が取り組むべき保健事業を効率的かつ効果的に推進していくため、市町村別の糖尿病性腎症の状況や医療費等状況について分析を行い、健康課題を見える化し、千葉県内市町村が取り組むべき課題を明らかにした。

●2020年度千葉医療構想フォーラムについて

「2020年度千葉医療構想フォーラム」は225名の事前申込みを得ていたが、COVID-19感染拡大の影響を受け、残念ながら延期となった。2021年7月24日（土）に活動報告会をかねた「2021年度千葉医療構想フォーラム」を開催する。